

## 2025年3月期 第2四半期（中間期）決算短信〔日本基準〕（連結）

2024年11月14日

上場会社名 株式会社オプティム 上場取引所 東  
コード番号 3694 URL <https://www.optim.co.jp/>  
代表者（役職名） 代表取締役社長（氏名） 菅谷 俊二  
問合せ先責任者（役職名） 管理担当取締役（氏名） 林 昭宏 (TEL) 03-6435-8570  
半期報告書提出予定日 2024年11月14日 配当支払開始予定日 —  
決算補足説明資料作成の有無 : 有  
決算説明会開催の有無 : 有（機関投資家・証券アナリスト向け）

（百万円未満切捨て）

## 1. 2025年3月期第2四半期（中間期）の連結業績（2024年4月1日～2024年9月30日）

## （1）連結経営成績（累計）

（%表示は、対前年中間期増減率）

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する中間純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2025年3月期中間期	4,517	3.0	794	4.1	663	△1.2	383	△2.7
2024年3月期中間期	4,384	5.6	762	33.1	671	29.9	394	31.9

(注) 包括利益 2025年3月期中間期 407百万円 ( 5.9%) 2024年3月期中間期 385百万円 ( 28.8%)

	1株当たり中間純利益		潜在株式調整後1株当たり中間純利益	
	円	銭	円	銭
2025年3月期中間期	6.96		6.93	
2024年3月期中間期	7.16		7.11	

## （2）連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
2025年3月期中間期	9,468	7,751	80.9%
2024年3月期	9,562	7,342	75.8%

(参考) 自己資本 2025年3月期中間期 7,659百万円 2024年3月期 7,249百万円

## 2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
2024年3月期	—	0.00	—	0.00	0.00
2025年3月期	—	0.00	—	—	—
2025年3月期(予想)	—	—	—	—	—

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

## 3. 2025年3月期の連結業績予想（2024年4月1日～2025年3月31日）

（%表示は、対前期増減率）

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する当期純利益		1株当たり当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円
通期	11,300	10.3	1,950	0.5	—	—	—	—	—

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 無

※ 注記事項

(1) 当中間期における連結範囲の重要な変更 : 無  
新規 一社 (社名) 、除外 一社 (社名)

(2) 中間連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 無

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無

② ①以外の会計方針の変更 : 無

③ 会計上の見積りの変更 : 無

④ 修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数 (普通株式)

① 期末発行済株式数 (自己株式を含む)

2025年3月期中間期	55,198,528株	2024年3月期	55,163,232株
2025年3月期中間期	99,642株	2024年3月期	95,347株
2025年3月期中間期	55,082,764株	2024年3月期中間期	55,052,328株

② 期末自己株式数

③ 期中平均株式数 (中間期)

※ 第2四半期 (中間期) 決算短信は公認会計士又は監査法人のレビューの対象外です

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている業績見通しなどの将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等はさまざまな要因により大きく異なる可能性があります。

○添付資料の目次

1. 経営成績等の概況	2
(1) 当中間期の経営成績の概況	2
(2) 当中間期の財政状態の概況	3
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	3
2. 中間連結財務諸表及び主な注記	4
(1) 中間連結貸借対照表	4
(2) 中間連結損益計算書及び中間連結包括利益計算書	5
(3) 中間連結財務諸表に関する注記事項	7
(継続企業の前提に関する注記)	7
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	7
(セグメント情報等)	7

## 1. 経営成績等の概況

### (1) 当中間期の経営成績の概況

当中間連結会計期間において当社グループは、前連結会計年度より継続して、圧倒的なシェアを持つ「モバイルマネジメントサービス」を着実に成長させるとともに、「X-Tech(クロステック)サービス」について急速に拡大するDX(※1)市場でイノベーションを創出し、大きな成長を実現することを目指し、両者を両輪として当社グループの事業を展開させてまいりました。

以下、当中間連結会計期間における具体的な進捗について、「X-Techサービス」「モバイルマネジメントサービス」「その他サービス」という分類に従ってお伝えします。

最初に、積極的な成長投資の中心である「X-Techサービス」についてお伝えします。

アグリテックサービスについては、国内の農業全体をDX化するべく事業展開を行っています。当連結会計年度では、ドローン農薬散布DXサービス「ピンポイントタイム散布サービス(以下、PTS)」を国内シェアNo.1とするべく、積極的な営業活動及び成長投資を実施しております。当中間連結会計期間においては、ドローン農薬散布DXサービスPTSを全国で提供し、その結果、特に水稲向けPTSの売上が前中間連結会計期間対比で大きく成長しております。

オフィスDXについては、当社グループが得意とするAIやIoTを活用することで、オフィスのさまざまな業務を効率よく正確に処理することを可能にするサービスを提供しています。当中間連結会計期間では、AIを活用した文書管理サービス「OPTiM Contract」及び「OPTiM 電子帳簿保存」について、高度なAIの文章解析精度や初めて利用する人でも直感的に操作できる点などを、お客様より高く評価をいただき、ライセンス数が順調に増加しております。

マーケティングDXについては、スマホを中心に大きく変容する消費者の生活様式にあらゆる組織、企業が対応できるスマホアプリなどを活用した「顧客接点のデジタル化サービス」を提供しており、さまざまな業界での事業展開が進捗しています。10月22日には、国内初(※2)、AIが実現するカスタマーサクセスサービス「OPTiM Customer Success Portal」を発表しました。「OPTiM Customer Success Portal」は、生成AI(※3)があらゆる業種における顧客満足度と顧客接点を最大化し収益機会の拡大を支援するサービスです。顧客とのコミュニケーションを一元管理・可視化し、AIが問い合わせへの対応やコンテンツの配信、アップデートを自動で行います。これにより、企業の顧客対応コストを削減しながら、顧客満足度を向上させます。また、マーケティングDXの中でも自治体DXサービスの「自治体公式スーパーアプリ」については、「佐賀市公式スーパーアプリ」において佐賀市民のスマホ所有者の3割以上が利用している実績や、日本DX大賞2024「優秀賞」を受賞したという実績をもとに、全国の自治体への展開を目指しております。当期もすでに複数の自治体への導入が決まっており、来期に向けての礎を築いております。

次に、もう一つの事業の柱である「モバイルマネジメントサービス」についてお伝えします。

「モバイルマネジメントサービス」では、市場の成長とあわせて順調に「Optimal Biz」のライセンス数が増加しております。当中間連結会計期間においては、「Optimal Biz」のWindows向け機能強化及び飲食店、小売店舗、物流業、工場などへの業務専用端末の管理メニューの追加を行いました。引き続き、市場における優位性を拡大するべく、機能強化に努め、サービスを成長させていきます。

最後に、「その他サービス」については、「Optimal Remote」や「タブホ」などのライセンス売上が計画通りに推移しております。

なお、当社グループでは生成AI分野への研究開発投資を積極的に推進しており、生成AIを用いた世界初(※4)の報告書自動作成カメラアプリ「OPTiM Taglet」や、国内初(※5)となる生成AIが実現するカスタマーサクセスサービス「OPTiM Customer Success Portal」、国内初(※6)、医師・看護師の文章作成業務を生成AIが支援する、オンプレミスLLM(※7)を搭載したサービス「OPTiM AI ホスピタル」など大規模言語モデル(LLM)を用いたサービスの提供を開始しております。今後も引き続き、生成AI分野への研究開発成果を活用し、あらゆる業界のDXを実現いたします。

このような取組みにより、当中間連結会計期間の経営成績は、売上高4,517,995千円(前中間連結会計期間比3.0%増)、営業利益794,135千円(前中間連結会計期間比4.1%増)、経常利益663,663千円(前中間連結会計期間比1.2%減)、親会社株主に帰属する中間純利益383,620千円(前中間連結会計期間比2.7%減)となりました。

経常利益と純利益は、前中間連結会計期間と比較して減少しておりますが、これは主に、持分法による投資損

失が43,475千円増加したことによるものです。

なお、当社グループの売上構造は、ストック型のライセンス収入で継続課金による売上が中心となっていること及びフロー型のカスタマイズ売上等の検収時期が下期に集中する傾向があること、などの理由から、売上は下期偏重となっております。

- ※1 DX…デジタルトランスフォーメーションの略称。「ITの浸透が、人々の生活をあらゆる面でより良い方向に変化させる」という概念であり、企業がテクノロジーを利用して、事業の業績や対象範囲を根底から変化させるという意味。
- ※2 2024年10月17日時点、当社調べ。
- ※3 生成AI…データから学習したパターンや関係性を活用して、テキストや画像、動画、音声などのコンテンツを新たに生成するAI技術の総称。
- ※4 2024年6月26日時点、当社調べ。AIのうちLLM(大規模言語モデル)を使った自動写真報告書作成サービスとして。
- ※5 2024年10月17日時点、当社調べ。
- ※6 2024年11月7日時点、当社調べ。電子カルテと連携し、オンプレミスとして導入されるLLM(大規模言語モデル)搭載サービスとして。
- ※7 LLM…Large Language Models(大規模言語モデル)の略。生成AIの一種で、大量のテキストデータを学習して高度な言語理解を実現するAI技術。

## (2) 当中間期の財政状態の概況

資産、負債及び純資産の状況

(資産)

当中間連結会計期間末における資産の残高は、9,468,020千円となり、前連結会計年度末と比較して94,514千円減少いたしました。これは主に、現金及び預金が605,854千円、ソフトウェアが185,264千円、及びソフトウェア仮勘定が198,072千円増加した一方で、受取手形、売掛金及び契約資産が924,397千円、投資その他の資産のその他が117,275千円減少したことによるものです。

(負債)

当中間連結会計期間末における負債合計の残高は、1,716,489千円となり、前連結会計年度末と比較して503,983千円減少いたしました。これは主に、短期借入金が300,000千円、未払法人税等が171,322千円減少したことによるものです。

(純資産)

当中間連結会計期間末における純資産の残高は、7,751,531千円となり、前連結会計年度末と比較して409,469千円増加いたしました。これは主に、親会社株主に帰属する中間純利益により利益剰余金が383,620千円増加したことによるものです。

## (3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

2025年3月期通期の連結業績予想につきましては、2024年5月15日の「2024年3月期 決算短信」で公表いたしました、連結の業績予想数値から変更ありません。

## 2. 中間連結財務諸表及び主な注記

## (1) 中間連結貸借対照表

(単位：千円)

	前連結会計年度 (2024年3月31日)	当中間連結会計期間 (2024年9月30日)
<b>資産の部</b>		
流動資産		
現金及び預金	1,902,753	2,508,607
受取手形、売掛金及び契約資産	2,491,259	1,566,862
棚卸資産	58,744	111,580
その他	146,307	164,883
流動資産合計	4,599,064	4,351,933
固定資産		
有形固定資産	440,196	424,678
無形固定資産		
ソフトウェア	2,852,745	3,038,009
ソフトウェア仮勘定	174,160	372,232
その他	47,727	44,658
無形固定資産合計	3,074,632	3,454,901
投資その他の資産		
敷金及び保証金	346,503	346,416
繰延税金資産	327,078	232,306
その他	775,059	657,784
投資その他の資産合計	1,448,641	1,236,507
固定資産合計	4,963,470	5,116,086
資産合計	9,562,534	9,468,020
<b>負債の部</b>		
流動負債		
支払手形及び買掛金	335,448	286,699
短期借入金	314,550	14,550
未払法人税等	397,346	226,024
賞与引当金	224,359	135,259
その他の引当金	22,667	10,826
その他	786,544	903,302
流動負債合計	2,080,916	1,576,662
固定負債		
資産除去債務	139,557	139,827
固定負債合計	139,557	139,827
負債合計	2,220,473	1,716,489
<b>純資産の部</b>		
株主資本		
資本金	444,587	445,435
資本剰余金	728,719	729,566
利益剰余金	6,188,174	6,571,794
自己株式	△75,500	△75,566
株主資本合計	7,285,980	7,671,229
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	△36,019	△11,828
その他の包括利益累計額合計	△36,019	△11,828
非支配株主持分	92,100	92,129
純資産合計	7,342,061	7,751,531
負債純資産合計	9,562,534	9,468,020

## (2) 中間連結損益計算書及び中間連結包括利益計算書

## 中間連結損益計算書

(単位：千円)

	前中間連結会計期間 (自 2023年4月1日 至 2023年9月30日)	当中間連結会計期間 (自 2024年4月1日 至 2024年9月30日)
売上高	4,384,572	4,517,995
売上原価	2,164,174	2,122,637
売上総利益	2,220,397	2,395,357
販売費及び一般管理費	1,457,534	1,601,221
営業利益	762,862	794,135
営業外収益		
受取利息	5	125
受取手数料	1,023	16,127
助成金収入	1,420	1,962
その他	2,537	1,532
営業外収益合計	4,986	19,747
営業外費用		
支払利息	704	465
持分法による投資損失	85,391	128,867
その他	10,121	20,887
営業外費用合計	96,217	150,219
経常利益	671,631	663,663
特別利益		
持分変動利益	—	1,996
国庫補助金	—	1,954
特別利益合計	—	3,950
特別損失		
固定資産圧縮損	—	1,954
特別損失合計	—	1,954
税金等調整前中間純利益	671,631	665,660
法人税、住民税及び事業税	197,229	197,914
法人税等調整額	80,126	84,095
法人税等合計	277,355	282,010
中間純利益	394,276	383,650
非支配株主に帰属する中間純利益	86	29
親会社株主に帰属する中間純利益	394,190	383,620

## 中間連結包括利益計算書

(単位：千円)

	前中間連結会計期間 (自 2023年4月1日 至 2023年9月30日)	当中間連結会計期間 (自 2024年4月1日 至 2024年9月30日)
中間純利益	394,276	383,650
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	△9,191	24,191
その他の包括利益合計	△9,191	24,191
中間包括利益	385,084	407,841
(内訳)		
親会社株主に係る中間包括利益	384,998	407,811
非支配株主に係る中間包括利益	86	29



(3) 中間連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

I 前中間連結会計期間(自 2023年4月1日 至 2023年9月30日)

当社グループの事業は、ライセンス販売・保守サポートサービス(オプティマル)事業のみの単一セグメントであるため、記載を省略しております。

II 当中間連結会計期間(自 2024年4月1日 至 2024年9月30日)

当社グループの事業は、ライセンス販売・保守サポートサービス(オプティマル)事業のみの単一セグメントであるため、記載を省略しております。